27　　終わらない悲しみ　　　　　　　　未然形接続の助動詞まとめ

良峯宗貞は深草天皇の近臣なり。蔵人頭になりにける時、帝におくれ奉りければ、やがて頭おろしてけり。いづくともなくおこなひありきけり。初瀬山にて、妻、行きあひたりａ（けり）ども、あらはれず。清水にては小町にあやめ　ｂ（らる）て、逃げにけり。

さて次の年、帝の御果ての日にあたりて、殿上人ども御服Ⅰ脱がむとて、河原に出でたりけるところに、

　みな人は花の衣にⅡなりにけり苔のたもとよかわきだにせよ

と詠みて、柏の葉に書きて、あやしの童して、さし置かせたりけり。取りて見るに、良少将の手に見なして、「いづら」とて使ひをたづぬるに、見えｃ（ず）けり。

さるほどに、のちには僧正になりて、花山の僧正、遍昭とぞいひｄ（けり）。

【本文チェック】

①（　）ａ～ｄの中の助動詞を、正しく活用させて書きなさい。

　ａ（　　　　　　）　　ｂ（　　　　　　）

　ｃ（　　　　　　）　　ｄ（　　　　　　）

②傍線部Ⅰ・Ⅱを現代語訳し、書きなさい。

　Ⅰ（　　　　　　　　　　　　　　　）

　Ⅱ（　　　　　　　　　　　　　　　）

③「良少将」と同じ人物を表す名を、二字と四字で文中から探して書き抜きなさい。

　（　　　）（　　　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　蔵人〔１〕（　　　　　　　　　）

２　帝〔１〕（　　　　　　　　　）

３　殿上人〔４〕（　　　　　　　　　　）

４　童〔７〕（　　　　　　　　　）

５　僧正〔９〕（　　　　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　おくる〔１〕　①取り残される

　　　　　　　　　②（　　　　　　　　　　　）

２　やがて〔１～２〕　①そのまま

　　　　　　　　　　　②（　　　　　　　　　　　）

３　頭おろす〔２〕　　（　　　　　　　　　　　）

４　さるほどに〔９〕　①そうする間に

　　　　　　　　　　　②（　　　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　　　③それにつけても

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　かぐや姫をやしなひたてまつること二十余年になりぬ。（竹取物語）

　ア　～（し）なさる　　イ　～（し）申し上げる

　ウ　～（し）ます　　　エ　～（し）続ける

　（　　　）

２　あやしきなれども、聖人の戒めにかなへり。（徒然草）

　ア　不思議な　　　イ　疑わしい

　ウ　身分の低い　　エ　体裁の悪い

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の中から、未然形接続の助動詞をすべて選べ。

けむ　　らむ　　む　　　　たり　　まし　　まじ　　さす　　る

たし　　ず　　　らる　　　じ　　　ぬ　　　むず　　き　　　す

しむ　　めり　　まほし　　なり

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

問５　次の（　）内の助動詞を正しく活用させて答えよ。

１　あげ①（さす）て、を高くあげたれば、わらは②（す）給ふ。

（枕草子）

　①（　　　　　）　②（　　　　　）

２　京には見え①（ず）鳥なれば、みな人見知ら②（ず）。（伊勢物語）

　①（　　　　　）　②（　　　　　）

３　にあら①（ず）ば、さらにかはら②（ず）けり。（土佐日記）

　①（　　　　　）　②（　　　　　）

４　後の御をこそよくよくせさせたまは（むず）。（保元物語）

　（　　　　　）

【古典常識】

問６　平安時代から鎌倉時代にかけて、相次ぐ地震や大風、などの災害の中で人の命のはかなさを目の当たりにし、世の無常を思い知って仏道に目覚め、修行の道に入ろうとする者がいた。このように、あの世で極楽に生まれ変わることを願い、出家しようと決意することを「発心する」という。また、出家の後、世俗の華やかな衣装の代わりに着る質素な僧衣のことを「墨染め」「の衣」「苔の」などという。

　　　「出家する」という意味を持たない語を次から一つ選べ。

ア　世を背く　　イ　様変ふ　　ウ　あつかふ　　エ　御髪下ろす

　（　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ａ＝けれ　ｂ＝られ　ｃ＝ざり　ｄ＝ける

②　Ⅰ＝脱ごう　Ⅱ＝なってしまったことだ

③　良峯宗貞・遍昭

問１　１＝くろうど　２＝みかど　３＝てんじょうびと

４＝わらわ　　５＝そうじょう

問２　１＝先立たれる　２＝すぐに　３＝出家する　４＝さて

問３　１＝イ　２＝ウ

問４　む・まし・さす・る・ず・らる・じ・むず・す・しむ・まほし

問５　１　①＝させ　②＝せ　　２　①＝ぬ　②＝ず

３　①＝ね　　②＝ざり　４＝むずれ

問６　ウ

【現代語訳】

問３　１　かぐや姫を養育し申し上げることは二十余年になった。

　　　２　身分の低い下﨟ではあるが、（彼の言葉は）聖人の教えに合致している。

問５　１　（そばの女房に）御格子をあげさせて、（私が）御簾を高くあげたので、（中宮様は）お笑いになる。

　　　２　京の都では見えない鳥なので、誰も見知ってはいない。

　　　３　飛鳥川ではないので、ふちや瀬は少しも変化していないことだよ。

　　　４　死後のご供養をよくよくなさるのがよい（でしょう）。